



# かけはし Kakehashi

a bridge over which people are connected

## 御挨拶

5月21日に開催されました通常総会におきまして3期目の会長を拝命することとなり改めて身の引き締まる思いであります。

振り返りますと昨年一月に開催された新春賀詞交歓会におきましては東京オリンピックそしてタイムリーに発表されたトヨタ自動車様のオープンシティ構想により大きな高揚感に満ち溢れた一年のスタートとなるはずでありました。しかしその後中国に端を発した新型コロナウイルスのパンデミックが瞬間に全世界を席卷し我々がこれまで何の支障もなく謳歌してきた当たり前の日常生活、社会活動があったという間に制限され感染の恐怖を身近に感ぜざるを得ない状況が今日も続いているの言うまでもありません。

しかし5月より始まった高齢者からのワクチン接種により少しづつではありますが日常の生活や社会活動が一刻も早く戻ることを期待するのみであります。

さて昨年度はコロナの影響により会の活動は大幅に制限されすべての対外的な事業活動は一時停止状態に陥ってしまったことは残念ではありません。こうした状況下、会員が国のコロナ支援対策のみならず市からの援助も最大限に受けられるよう年度初めから数回にわたり各商店会の苦境に置かれた実情を訴えながら陳情を行いました。

結果的には十分満足とは言えない回答結果でありましたが現状の市の財政状況からしてやもう得ずとの思いでもありました。

こうした中、会員の皆さまのコロナによる影響は各業種により差があるにせよ大幅な会員減少もなく乗り切れつつある状況に少々安心しております。が今後こうした状況が長引くことも十分予測されますので新たな生活様式に対応した事業活動を会としても積極的に支援してゆく所存であります。

総会にて報告いたしました昨年をもち会館の土地購入資金返済が30年近くかかりましたが完了いたしました改めて協力いただいた全会員さらに当初利子補給いただいた市当局に感謝申し上げます。今後もなお一層財政状況健全化のため努力いたしたいと思っております。私も商工会にかかわり早30年近くの歳月が流れました。

あと三年最後の任期と覚悟の上、次世代へのバトンタッチを踏まえ微力ながらがんばりますどうか役員のみならず会員 職員すべての関係者のご支援、ご協力を切にお願いいたします。

## 商工会 会長

渡邊 康一



## 商工会 局長

荻島 昭章



令和3年度 裾野市商工会通常総会



今年4月より事務局長として勤務させて頂いております荻島昭章と申します。

私は近隣金融機関に36年間勤務し、今回当商工会よりお声掛けを頂きお世話になることになりました。以前の職場では取引先企業の皆様へのご融資や財務面のアドバイス及びビジネスマッチング等金融面を主体に支援をさせて頂いてきました。

未だ新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、地域経済の疲弊や経営環境の悪化等会員の皆様においては厳しい状況が続いていると思われま。

私はこれまで経験してきたことを活かし、会員皆様の経営課題を共有して県・市等関連機関の助成金や補助金の活用及び各金融機関と連携を深め経営安定に向けて積極的な支援をさせて頂き、裾野市の活性化に繋がるよう精一杯つとめさせて頂く所存です。

また、役職員及び会員の皆様にご指導とご協力を得ながらしっかり当商工会の運営をしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 産業部 部長

鈴木 敬盛



この4月に裾野市産業部長を拝命した鈴木敬盛(たかもり)です。実に身が引き締まる思いで、責任の重さを痛感しております。

さて、世界は今、コロナ禍にあって、人の移動や活動が制限され、社会全般が思い通りにいかないもどかしさの中にあります。ワクチンが行き渡るまでの間、耐え忍びながらも何とかこの苦境を切り抜け、その先に広がる希望につなげ、持続可能な社会を築いていくことが大切であると感じております。

そのための準備として、先人が築き上げた歴史と伝統を礎に、人工知能や脱炭素といった世界的な新しい潮流を捉えながら、市制50周年後のアフターコロナを見据えた時代への歩みを進める必要があると思っております。全世界から注目される「オープン・シティ」は大きなチャンスであり、その成果や恩恵を共有し、官民が一体となって、地域の発展に生かしていくことが大切であると考えます。

コロナ禍、そして追い打ちをかける厳しい市の財政状況ではありますが、会員事業者の皆様と共に歩み、共に栄える「裾野市の産業づくり」に向け、会報の名前にもありますように、皆様との「かけはし」になれるよう努めてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 産業振興課 課長

亀崎 浩子



この4月に裾野市産業振興課長を拝命した亀崎浩子と申します。初めての課長職、そして産業分野も初めての担当ということで、着任時より日々緊張感を持って仕事をさせて頂いております。

昨年より引き続き、日本国内のみならず全世界で新型コロナウイルス感染症の拡大による人命の危機や、各国の経済状況がひっ迫している状況です。裾野市もその影響は大きく、現在「財政緊急事態宣言」を発表しております。

ただし、現状を嘆くだけでは先には進めません。市はアフターコロナを見据えた産業振興を進めるべく、商工会様やその会員事業者様と協力連携し、「裾野市らしい産業」のカタチや、「裾野市における事業への誇り」を持っていただけるような情報提供・支援、そして共に行動することを進めて参る所存です。

市制50周年の節目の年を迎え、諸先輩方が築かれた「裾野市の歴史」を大切にしつつ、これからの裾野市の産業の発展、そして事業者様方が益々活躍いただける舞台づくりの担い手として頑張らせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 令和2年度 事業報告

### 総括的概要

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、私たちの社会生活や経済・産業活動に多大な影響を与えました。コロナ禍の前と後では人々の意識や何に重きを置くのかの価値基準も大きく変化してきています。中小零細企業を取り巻く経営環境も大きく変容し、多くの企業の職場においてもテレワークやウェブ会議など非接触型の働き方が広く浸透してきています。その一方では、従来とは異なる環境の変化を捉えて新たな事業を創出する動きも見られてきました。

しかし我々会員企業の大多数である小規模企業の現況は、生活様式等の変化に伴い大変厳しい1年でありました。コロナ禍で、国並びに県が様々な金融施策を示し最重点課題として取り組み、経営環境が悪化していた小規模企業に救いの手を差し伸べ、一時的に急場を凌ぐことができたが根本的な解決策には至らず、借入金の増加だけがクローズアップされ収益面の改善は見ることができませんでした。

こうした環境が続く中、本会の事業運営も変化に対応しつつ厳しいものでありました。コロナ禍で事業が予定通り実施されなかったこともあり、支出が抑えられた事はプラス要素ではあったが、本来やらなければならない地域振興事業の多くは実施する事はできませんでした。また新規会員加入勧奨や各種共済推進実績も目標設定に届かなかった為、会費及び手数料収入等は減少し収益面でも計画通りに行かなかったが、給付金や助成金の申請手続き、経営革新申請承認、持続化補助金申請、経営力向上支援事業等、事業所にメリットの大きい補助金申請等は着実に成果を上げていくことで会員との信頼関係を強固にすることができました。また、地域経済の活性化には常に気を配り、すそのブランド認定品推進事業は市庁舎玄関口にサンプル展示をさせて頂いた以降、市民の注目度も上がり市内外からの評価も高くなり大きな実績につながりました。これらは全て静岡県、裾野市並びに静岡県商工会連合会等関係機関のご指導、ご支援を仰ぎ実施した賜物です。

## 令和3年度 事業計画

### 基本方針

新型コロナウイルス感染症が収まる気配のない中、地域経済活動への影響に深い影を落としはじめた今日、多くの産業分野に急激な業績の悪化や賃金・雇用不安など警戒すべき状況が見られ始め、景気の回復が懸念される中有効な支援体制の構築も急務となってきました。

このような経済環境の下、当商工会は最大の課題である財政基盤の強化をするため、前年度新たな事業もスタートさせ財源確保を目指し、また巡回指導等を通じて会員企業に対し丁寧な指導を心掛け、事業所の持続的発展のため、県・市と共に関係支援機関と連携して給付金及び助成金の申請、各種の施策事業を活用しながら経営課題に積極的に取り組み、会員の期待に応えられる様、本年も推進していく所存であります。

また、コロナ禍の中、先行きに好転の兆しが見えない経営環境の悪化が進む会員企業への支援対策にも力を入れ、政府系金融機関及び市内金融機関と連携して、零細企業の資金繰りや制度融資の拡充に対する支援等を積極的にを行い、企業活動の継続に向けた支援に注力をしていきます。

更に、経営発達支援計画も3年目に入り、本年度は更にパワーアップして小規模企業支援が円滑に行われるよう万全の準備を整え、地域資源の活用、販路開拓、雇用安定等様々な用途に役職員が一丸となり、重点目標を中心に事業推進します。

